

これは昨年の夏のことである。私の住んでいるマンションでは年に数回だけ水道工事が行われる。

そんなある日私はお風呂に入ろうとした。その時だった。私は母から「今日は水道工事の日だから今は水使えないよ。」と言われた。その時間はちょうど時計の針が十八時三十分を指したときだった。いつもならこの時間はお風呂に入ったり、母は夕飯の支度をしていたりする時間だが、今日はまだ夕飯の支度をしていない。そして私は「水道工事なんてして何か意味があるの。」と聞いた。その後母は「みんなが水を安全に使うために点検してくれているの。」と言った。私は「もう浄水場とか浄水センターで水は綺麗になっているのにな。」「別にパイプとか簡単に壊れるわけじゃないんだし工事しなくてもいいじゃん。」と思い、水道工事が終わるまでリビングで暇をつぶしていた。その後私は水道工事が終わってお風呂に入っているときにふと、「水道工事は何のためにやってるんだろう。」と考えた。そこで、お風呂後に水道工事が何のためにしているのか調べてみることにした。

調べると大きく分けて七つの工程があった。一つ目は工事の計画。二つ目は事前調査。三つ目は新しい水道管の埋設。四つ目は家庭の給水管への繋ぎ変え。五つ目は水道管の切り変え。六つ目は古い水道管の撤去。七つ目は舗装工事である。七つとも大切な作業で一つでも欠けたら水道工事はできないということが分かった。また水道はもともと古くから使われていると思っていたが、日本では主に明治時代から水道が使われるようになっていた。水道工事はかつて木樋を埋める原始的な手法だったが時代とともに、鉛管・鉄管・鋳鉄管へと変化していき、今では地震に強いポリエチレン管なども使用されているそうだ。そして、私達の住んでいる北九州市では百年以上の歴史を有している。昔、八幡市では製鉄所ができたおかげで大小の関連企業がで、一大工業都市となった。人口増加と企業発展により、八幡製鐵所の河内貯水

池と製鐵所遠賀川送水管から分水を受けて昭和五年から給水を開始したのだという。私はこれまでなにげなく使ってきた水にこんな歴史があり、大勢の人々の努力があるおかげで安全な水を使えているということが分かった。もしも、このような歴史がなければ今も川や海に自分で水を取りに行くなどのとても大変な生活になっていたのではないだろうか。こうして考えると水道は私たちの生活を支え衛生面でも大きな役割を果たし、人々の健康を守ることに繋がつているのだと考えた。こうして作られた日本の、北九州市の上下水道の技術は今や、世界のさまざまな所へと飛び立ち、たくさんの人々を救っているようだ。そうして考えるとなぜだか誇らしく思えるようになった。

私はあの水道工事について調べなければ日本の歴史も、水の大切さも知らず分からないまま生活を送っていたのかもしれないと考えたと、あの水道工事について疑問をもつて調べてみて、本当によかったと思えた。蛇口の向こうには長い歴史と多くの人の努力が繋がっている。そのことを忘れないことこそが、これから水と共に生きてゆく私たちの責任なのだと考えた。そのため、中学生の私ができることは少ないが、節水をしたり、もっと水について調べたりして、この大切な地球の資源を守り、そしてつなげていきたい。